

## 小学部 6 学年・自立活動 学習指導案（例）

日時 令和〇年〇月〇日（〇）

第〇校時 〇：〇～〇：〇

対象 第 6 学年 4 名

授業者 〇〇〇〇

場所 〇階 自立活動室 〇

### 1 単元名

危険を予測し自分や他の人の安全のために主体的に行動しよう（安全教育・危険予測学習）

### 2 単元設定の理由

#### (1) 児童観

6 年生在籍の 4 名は全員、点字を使用して学年相当の学習を行っている。自立活動で下校指導を行い、全員が自宅または途中駅までの単独下校を許可されている。4 名は 1 年生から 6 年間ずっと同じクラスメイトとして過ごしており、関係性は概ね良好である。

本単元に関わる児童の実態について、次の表に示す。

児童	本単元に関わる児童の実態
A 児	学校から自宅まで公共交通機関を利用して単独歩行できる。 積極的に意見を述べることができる。
B 児	学校から池袋駅を經由して自宅最寄り駅まで単独歩行できる。 積極的に意見を述べることができる。
C 児	学校から通学ルート途中の乗換駅まで単独歩行できる。 吃音のため滑らかに発言できず、発言のタイミングを逃してしまうこともあるが、自分の意見をしっかりと持っている。
D 児	自宅まで徒歩で単独歩行できる。公共交通機関を利用して池袋駅まで単独歩行できる。 積極的に意見を述べることができる。

児童の居住地の違いにより下校指導の内容や時期、通学ルートにおける困難性が異なる。下校指導は「ひとりで下校できるようになる」という見通しがもてて、自立心と自信を養う。4 名とも単独歩行への意欲をもって取り組んでいる。

クラスでの話し合い活動においては、6 年間一緒に過ごしてきた気心の知れた仲間ということもあり、活発に意見交換がなされている。3 年生以上の縦割り集団で行われる班・クラブ活動においては、高学年は班長や部長を担い、話し合い活動で司会を務めることが多い。主体的に自分の意見を言うだけでなく、他の人の意見にも耳を傾け、全体の意見をまとめている。

## (2) 単元観

本単元のねらいは、実際に起きた視覚障害者関連の事件・事件事例の場面をもとに、起こりうる危険を予測し、自分自身が巻き込まれないようにするためにはどのように行動したらよいかについて考え、自他の安全のために主体的に行動できるよう危機意識や安全意識を高めることである。

文部科学省『「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育』の第2章「学校における安全教育」によると、安全教育の小学校段階の目標は、「生活安全」「交通安全」「災害安全」に関する様々な危険の要因や事故等の防止について理解し、日常生活における安全の状況を判断し進んで安全な行動ができるようにするとともに、周りの人の安全にも配慮できるようにすることである。

日常生活で起こる事件・事故の内容や発生原因、結果と安全確保の方法について理解し、安全に行動ができるようにすることは非常に重要である。特に、6年生は単独下校を開始しているので、通学路の危険と安全な登下校の仕方、道路の歩行や道路横断時の危険の理解と安全な行動の仕方、幼児、高齢者、障害のある人、傷病者等の安全に対する理解と配慮等を学ぶ必要がある。

安全に関する教育は体育科、家庭科及び特別活動の時間はもとより、各教科等において行うことが可能で、自立活動においても取り組める内容である。

安全教育の効果を高める進め方の一つに、危険予測学習(危険予知トレーニング、KYT)がある。これは、絵や写真、動画などの視聴覚教材や資料を見て、そこに潜む危険を予測し指摘しあうことで、現実には起こりそうな危険に気づき、事故に遭わないためにはどのように行動するのかを考え、自ら安全に行動できるよう危機意識や安全意識を高めることを目的とする学習活動である(危機管理・KYTの進め方 山口県教育庁 学校安全・体育課参照)。

## (3) 指導観・教材観

KYTの基本手法で、職場や業務にひそむ危険を発見・把握・解決していく「4ラウンド法(KYT基礎4R法)」(厚生労働省)がある。

第1ラウンド：現状把握 どんな危険が潜んでいるか

第2ラウンド：本質追究 これが危険のポイントだ

第3ラウンド：対策樹立 あなたならどうする

第4ラウンド：目標設定 私たちはこうする

本単元の指導に当たっては、「4ラウンド法」を取り入れ、活動内容を学校教育向けにアレンジしている。小学生の場合、経験豊かな大人とは異なり、具体的な状況を把握し、より複雑な危険や起こりうる事件・事故の予測をすることが難しいと思われる。そこで、状況の展開を考えやすいよう、「1 現状把握」で危険や問題点の指摘を自由に行わせた後、「2 本質追究」では、実際に起きた事件・事故の

報道記事を提示して状況の詳しい説明を行い、それをもとに意見交換する。自分の知識と友達の知識との共通点や違いを認識するとともに、事件・事故の原因をより深く探ることができ、児童の危険予測・回避能力を向上させることができる。

また、視覚障害者が巻き込まれた事件・事故の事例を用いることにより危険や問題点を身近に感じることができ、危機意識をより高めることができると考える。

### 3 障害の状況と使用文字

児童	眼疾患名	視力	
A児	〇〇	R:手動	L: 0
B児	〇〇	R: 0	L: 0
C児	〇〇	R: (0.02)	L: (0.02)
D児	〇〇	R:0.01	L:0.02

全員、点字を使用して学習している。

### 4 単元の目標

その場面に自分が居ると仮定し、想像力を働かせ、起こりうる危険や問題点について考えて発表する。また、単独下校時の自分自身の歩行の様子を振り返り、今後注意すべき点について考える。友達の意見を聞き、自分とは違う意見もあることに気づき、自身の考えを深める。

### 5 単元の評価基準

評価については、授業中の児童の発言や感想などから、児童が身に着けた知識や態度を把握し、評価を行う。（【区分一項目】）

- ① 状況を理解し、日常生活の中に潜む様々な危険を予測して発言できたか。  
【2－（2）、6－（2）】
- ② 日常生活における事件・事故の現状、原因及び防止について理解できたか。  
【4－（5）】
- ③ 危機意識や安全意識を高め、現在及び将来に直面する課題に対して自ら改善できることについて考えられたか。【4－（1）（3）（4）】
- ④ 自他の生命を尊重し、安全な社会づくりの重要性を認識して主体的に行動しようとしているか。【3－（2）（3）】

### 6 単元の指導計画（指導時間 4時間）（太字は学習活動）

第1次 駅ホームの点字ブロック上を盲導犬ユーザーの人が歩いてきます。向かい側から、白杖を持った視覚障害者が小走りで近寄ってきました。どんな危険が予想できますか？【資料（ア）】—————（本時）

○1 R 現状の把握：どんな危険が潜んでいるかについて考え、自由に意

見を発表する。友達の意見を否定するような発言は控えさせる。

○2 R 本質の追究：事例を提示して、どこが危険であったか問題点を整理する。

○3 R 対策の樹立：自分ならどうするか、改善策・解決策を考える。

○4 R 目標の設定：改善策・解決策をまとめ、自分たちはこうしているという共通認識を図り、事前の危険回避を心がける。

第2次 人通りが多い駅で視覚障害者が点字ブロック上を歩いています。向かい側から晴眼者が歩いてきますが、どうやら白杖に気づいていないようです。どんな危険が予想できますか？【資料（イ）（ウ）（エ）】  
(学習活動は第1次の太字部分と同様)

第3次 視覚障害者が横断歩道を渡っています。早朝のため信号機は音響が鳴らない設定になっています。トラックが近づいてきました。どんな危険が予想できますか？【資料（オ）】  
(学習活動は第1次の太字部分と同様)

第4次 視覚障害のある女性が帰宅した際、玄関ドアの鍵穴に鍵を挿したまま忘れてしまい、翌朝、家を出るときに気づきました。どんな危険が予想できますか？【資料（カ）】  
(学習活動は第1次の太字部分と同様)

## 7 本時の目標

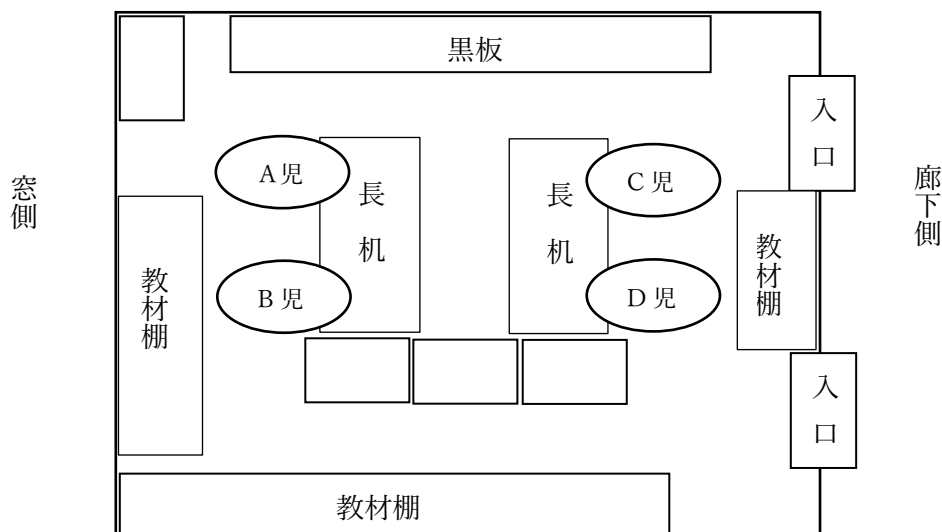
### (1) 全体の目標

想像力を働かせ、自分の意見を述べる。また、友達の意見を否定することなく参考にし、自分の考えを深める。

### (2) 個々の目標

児童	本時の目標
A児	・危険や問題点に気づき、対策について考える。 ・友達の意見を聞いて考えを深める。
B児	・危険や問題点に気づき、対策について考える。 ・友達の意見を聞いて考えを深める。
C児	・危険や問題点に気づき、対策について考える。 ・気持ちをできるだけリラックスさせて発言する。
D児	・危険や問題点に気づき、対策について考える。 ・友達の意見を聞いて考えを深める。

## 8 座席配置



## 9 準備物

事件・事故の記事データ、点字ディスプレイ（ブレイルメモスマート）

### 10 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入 7分	1. 本単元と本時の学習内容を知る。 2. 単独下校の感想を発表する。 <b>【予想される発言】</b> ・一人で下校できて自信がつく。 ・他の人とぶつかった。等	1. 本単元及び本時の学習内容とめあてを伝える。 2. 危険を感じたことがあれば、取り上げる。	全員：日常生活の危険を意識する。(①)
展開 25分	3. 1 R（現状の把握）：場面の状況を把握し、危険や問題点を指摘する。 <b>【予想される発言】</b> ・衝突する。 ・転んで怪我をする。 4. 2 R（本質の追究）：資料（ア）の記事を読んで意見交換し、原因を探り、問題点を整理する。	3. 自由に発言させるが、友達の見解を否定するような発言は控えさせる。 4. 資料を提示し、音読させる。裁判資料をもとに状況説明を補足する。	全員：状況を理解し、危険を予測して発言できる。(①)  全員：事故の状況・原因を理解できる。(②)

<p>展開 25分</p>	<p>【予想される発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小走りが危険。</li> <li>・白杖の使い方がよくない。</li> </ul> <p>5. 3 R（対策の樹立）：自分ならどうするか、改善策・解決策を考える。</p> <p>【予想される発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すぐに止まれる速さで歩く。</li> <li>・白杖で足元をよく確かめて歩く。</li> <li>・常に危険を意識して歩く。</li> </ul>	<p>5. 白杖の役割、混雑地での歩行方法、ホーム上での白杖の使い方注目させる。</p>	<p>全員：自ら改善できることについて考えられる。(③)</p>
<p>まとめ 13分</p>	<p>6. 4 R（目標の設定）：単独歩行で気を付けるべきこと、また授業の感想をノートに記入し、発表する。</p>	<p>6. 児童の発表を補足し、今後こうしているという共通認識を図る。</p>	<p>全員：自他の生命を尊重し、安全に行動しようとする。(④)</p>

資料（ア） 「全盲者同士、点字ブロック上で衝突 負傷女性が勝訴」

2017/2/9 06:32 神戸新聞NEXT

## ■全盲者同士、点字ブロック上で衝突 負傷女性が勝訴

神戸市営地下鉄の三宮駅で、ホームを小走りしていた全盲の20代男性（神戸市須磨区）とぶつかり、背骨を折るなどしたとして、同じく全盲の女性（65）＝同市東灘区＝が約950万円の損害賠償を求めた訴訟で、神戸地裁は8日、男性の過失を認め、慰謝料や治療費など約790万円の支払いを命じる判決を出した。

判決によると、2013年8月1日午前9時すぎ、女性が盲導犬を連れてホームを歩いていたところ、下車して改札に向かっていた白杖（はくじょう）の男性と点字ブロックの上でぶつかった。

訴訟では、男性が点字ブロックの上を小走りしていたのかどうか争点の一つとなり、同地裁は防犯カメラの映像などから小走りだったと認定。「直ちに停止できる速度で進行していれば、接触はやむを得ないとしても、事故は避けられた」とし、他の視覚障害者が歩いている可能性を考えておくべきだったとした。

## 1.1 主要参考文献

- ・「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育 2019年5月5日 文部科学省 HP
- ・社会福祉施設における安全衛生対策マニュアル～腰痛対策・KY活動～ 厚生労働省
- ・危険予測学習（KYT）4ラウンド法 2014年8月5日 山口県教育庁学校安全・体育課
- ・子どもの危機意識の向上につながる安全教育に関する研究－危険予測学習（KYT）の活用を通して－ 山口市立小郡中学校 教諭 柴崎 誠二
- ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）平成30年3月 文部科学省
- ・「全盲者同士、点字ブロック上で衝突 負傷女性が勝訴」2017年2月9日神戸新聞NEXT
- ・平成29年2月8日判決言渡 平成27年(ワ)第1235号 損害賠償請求事件 神戸地方裁判所
- ・「『一人で歩くな』 全盲男性、点字ブロックで通行人とぶつかり白杖壊れ、蹴られる八王子」 2019年7月5日 毎日新聞
- ・「川越・全盲少女傷害事件で44歳男を聴取」 2014年9月13日 J-CAST ニュース
- ・「『全盲少女にも非があったのでは』 白杖につまづき蹴った加害者に理解を示す心ない人たち」 2014年09月12日 J-CAST ニュース
- ・「赤信号で横断か、視覚障害の男性はねられ死亡」 2018年12月7日 読売新聞
- ・「『目が見えなければばれないと』 視覚障害者狙い盗撮容疑」 2020年6月10日 朝日新聞デジタル

## 1.2 資料

- (イ) 「『一人で歩くな』 全盲男性、点字ブロックで通行人とぶつかり白杖壊れ、蹴られる 八王子」

2019年7月5日配信『毎日新聞』

### 「1人で歩くな」 全盲男性、点字ブロックで通行人とぶつかり白杖壊れ、蹴られる 八王子

東京都八王子市の京王八王子駅前の路上で今月3日、点字ブロックの上を歩いていた全盲の男性が通行人と正面からぶつかり、白杖（はくじょう）が壊れた。つえを拾おうとかがんだところ、男の声で「目が見えないのに1人で歩くな」と言われ、右足を蹴られたという。けがはなかったが、相手はそのまま立ち去ったという。

被害に遭ったのはNPO法人「八王子視覚障害者福祉協会」副理事長で市内に住む宮川純さん（41）。3日午前8時ごろ、JR八王子駅前でバスを降り、歩いて職場の福祉事業所に向かう途中だった。予備のつえを使って職場に着くことができた。

散らばったつえの部品を拾ってくれた通行人が、ぶつかった相手は「20～30代のサラリーマン風の男」だったと教えてくれたという。宮川さんはぶつかった直後にスマートフォンが落ちたような音を聞いた。毎日新聞の取材に「もし『歩きスマホ』なら絶対にやめてほしい。白杖がなければ外を一步も歩けない人がいることを分かってほしい。予備のつえで歩いているが、不安でたまらない」と訴え、助けてくれた人や心配して声をかけてくれた人に感謝の気持ちを述べた。

社会福祉法人「日本盲人会連合」は6月、駅の安全対策として「歩きスマホの禁止」などに取り組むように国土交通省に陳情している。通行人とぶつかって転倒し入院した例もあるという。



壊れた折りたたみ式の白杖。先端のキャップが外れた上、つなぎ目が割れている＝2019年7月3日撮影（宮川純さん提供）

- (ウ) 「川越・全盲少女傷害事件で44歳男を聴取」

## 川越・全盲少女傷害事件で44歳男を聴取

2014年09月13日11時27分 J-CAST ニュース

JR川越駅（埼玉県）構内で登校中の全盲の女子生徒が足を蹴られ負傷した事件で、埼玉県警は2014年9月12日、暴行したとみられる同県狭山市の男（44）を特定し、任意捜査を開始したと発表した。

報道などによると、防犯カメラや複数の目撃情報などから男の関与が浮上した。男には知的障害があり、取り調べに対しての受け答えが困難な状況で、事件についての明確な供述も得られていないという。県警は刑事責任能力の有無を含め、慎重に調べを進めている。



(エ)「『全盲少女にも非があったのでは』 白杖につまずき蹴った加害者に理解を示す心ない人たち」

2014年09月12日19時29分

「全盲少女にも非があったのでは」 白杖につまずき蹴った加害者に理解を示す心ない人たち

JR川越駅(埼玉県)構内で全盲の女子生徒が何者かに蹴られ負傷する事件が起きた。白杖につまずき転倒した腹いせに背後から蹴ったとみられ、許しがたい行為にインターネット上には怒りが噴出している。

だが一方では、加害者側に理解を示したり被害者の「落ち度」に言及したりする人も少なからずいるのが現実のようだ。

事件後「一人で歩くのが怖い」

被害にあったのは埼玉県立特別支援学校「埼玉一学園」(川越市) 高等部に通う全盲の女子生徒。報道によると2014年9月8日朝、登校するためJR川越駅構内で白杖を使いながら点字ブロックの上を歩いていたところ、前方から来た人物が白杖につまずいた。相手の転倒する気配がした直後、背後から右ひざの裏を強く蹴られた。

加害者は転倒した人物とみられ、近くからは「あんた何やってるんだ」と怒鳴る年配の男性の声が聞こえたという。だが蹴った人物は無言でその場を立ち去った。女子生徒はひざを伸ばしたり曲げたりすると痛みを覚えるといい、病院では全治3週間のけがと診察されたという。女子生徒はこれまでも白杖にひっかかった人から文句を言われることはあったそうだが蹴られたのは初めてで「一人で歩くのが怖い」と話している。心にも傷を負ってしまった。

7月下旬には、さいたま市の全盲の男性が連れていた盲導犬オスカーが何者かに腰付近を刺されてけがをする卑劣な事件が起きたばかりだ。視覚障害者にとっては盲導犬も白杖も目のかわり。立て続けに起きた社会的弱者に対する卑劣な行為は多くの人にショックを与えた。

インターネット上には「逆上すんなよ...仕方ないじゃん」「マジ捕まえてほしい」「加害者だっていつ障害者になるか分からないのに」「点字ブロックでの優先順位は視覚障害者が上でしょう」といった声が相次ぎ寄せられている。

「尾木ママ」こと教育評論家の尾木直樹さんも10日、「憤り通りこして脱力感と悲しさ...」「なんて世の中になったことでしょうか...悲しいですね」と女子生徒の一件をブログで嘆いた。

「謝ってないなら蹴った人の怒りももっとも」「全盲なら家でんよ」

ところがその一方で、蹴ることは問題だとしつつも加害者側に共鳴する人も少なくない。特に女子生徒が白杖のぶつかった相手に謝罪をしたという報道がないことから、ツイッター上には

「正直全盲だからとは言え他人に杖で転倒するような事されたら普通に殴りたくもなると思っただよなあ...」

「自分の持つ杖で人が転んだかもしれないのに歩き続けたというのは同情の余地ないとおもうんだけど」

「少女って謝ったの?こける気配がしたっていったけど... まあ蹴った人も正しいとは全然言えないけどね。謝ってないなら蹴った人の怒りももっとも気がする」

といった意見がいくつも投稿されている。

こうした声に対しては視覚障害のある人たちから、

「全盲だと何が起きたか見えないんだから、痛え...とか声がしない限り分からんよ」

「杖でも身体でも人をイメージさせる物に当たったらとらあえず謝るし、ましてや相手が転んだことを認知したら『大丈夫ですか?』って思わず声が出て立ち止まると思うんです」

といった反論も出ている。

また、女子生徒が謝ったかどうかの話にとどまらず、

「通勤ラッシュのときとかはさすがに周りからしたら邪魔やからさすがにそこそこは理解しといてほしいわ」

「え?黄色い線上は視覚障害者の専用線なの?いやそんな意識全くなかったし、ラッシュ時にあそこ歩かないなんて無理だよ」

「全盲の人が迷惑かけてしまうのはしょうがないけれど、全盲なのを理由にはいけない」

といった意見も出ている。中には「めくらはめくららしく家の座敷牢でも大人しくしてればいいのに」「全盲なら家でんよ...」などと心無い差別的な発言も散見される。

事件後には加害者寄りの発言などを集めたNaverまとめも作られた。12日18時時点でツイート回数は1万2600回以上、Facebookの「いいね!」は約1万3000回つくなど反響を呼び、「嘆かわしい想像力の欠如」「世も末」とバッシングを受けている。

(オ)「赤信号で横断か、視覚障害の男性はねられ死亡」

2018年12月7日(金) 22:34 配信



### 赤信号で横断か、視覚障害の男性はねられ死亡

7日午前4時半頃、東京都豊島区駒込の都道で、近所に住む放射線医学総合研究所（千葉市）の主幹研究員、栗原亨さん（64）が横断歩道を歩いていたところ、北区の運送会社員の男性（23）が運転するワゴン車にはねられ、胸などを強く打って約5時間後に死亡した。

警視庁巣鴨署の発表によると、栗原さんは視覚障害があり、白杖（はくじょう）を手に道路を渡っていた。同署はワゴン車のドライブレコーダーの映像などから、栗原さん側が赤信号だったとみている。

現場の信号機は、青信号の間に音が鳴る仕組みだったが、早朝と夜間は音が鳴らない設定だった。巣鴨署が事故の状況を調べている。

同研究所によると、栗原さんはがん治療に関する広報活動や人材育成を担当。午前7時半からの勤務だったが、通勤ラッシュを避けるために毎朝、早朝に出勤していたという。

(カ)「『目が見えなければ ばれない』 視覚障害者狙い盗撮容疑」

朝日新聞デジタル 2020年6月10日 15時55分

### 「目が見えなければ ばれない」 視覚障害者狙い盗撮容疑

視覚障害のある女性2人を狙い、それぞれの自宅で盗撮したなどとして、警視庁は10日、東京都中野区本町3丁目の会社員牧野祐希容疑者（36）を住居侵入や都迷惑防止条例違反（盗撮）などの疑いで逮捕し、発表した。

牧野容疑者は調べに対し、「目が見えなければ盗撮してもばれないと思った」と供述。白杖（はくじょう）を使い歩いて帰宅する2人の後をつけ、自宅を割り出したという。牧野容疑者のハードディスクには他にも盗撮したとみられる動画が保存されており、警視庁はさらに調べる。

中野署によると、牧野容疑者は2017年10月～18年6月、中野区の30代女性宅に計4回侵入した疑いがある。女性が以前、鍵穴に挿したまま忘れていた鍵をもとに合鍵を作製。盗撮のため室内にカメラを設置し、動画が記録されたSDカードを回収していたという。

さらに、昨年4～6月に3回、別の30代女性が東京都杉並区の自宅で着替える様子を、玄関の外からスマートフォンを使って撮影した疑いもある。

先月、別の盗撮事件で逮捕されていた。